

教員名	伊藤 美重子 (ITO Mieko)
所 属	文教育学部言語文化学科中国語圏言語文化講座
学 位	文学修士
職 名	助教授
URL/E-mail	itomi@cc.ocha.ac.jp

## ◆研究キーワード

敦煌文献 / 通俗類書

## ◆主要業績

総数 (3) 件

- ・ 学術論文：「類書について」『お茶の水女子大学中国文学会報』第 24 号、pp1-15、2005 年 4 月
- ・ 報告書『唐代通俗類書初探』66p+105p、2006 年 3 月（平成 16-17 年度文部科学省科学研究費補助金、基盤研究 (C) (2)「中国の通俗類書に関する基礎的研究：課題番号；16520202、研究成果報告書」

## ◆研究内容

### 唐代の通俗類書研究

ここ数年来、敦煌文献の中の教訓的内容をもつ文献を調査研究している。教訓書の類の調査は、ほぼ終了したが、教訓書という形ではなく「類書」という形で、教訓的内容を集めている文献があり、その研究に取りかかっている。「類書」問題を扱うに際して、「類書」自体の正確を明らかにすべく、「類書について」（『お茶の水女子大学中国文学会報』24 号）の一文を発表した。教訓的内容の類書だけではなく、「通俗類書」を対象をひろげ、調査検討をし、前年度から引き続いている科研費を交付された「中国の通俗類書に関する基礎的研究」（基盤研究 C）の報告書にその結果をまとめた。通俗類書は中国中央の資料では宋代の文献の中にしか見られず、宋代以降からその編集が盛んに行われていたが、敦煌文献の中に中央には伝わらなかった、通俗類書が存在していることから、唐代でも通俗類書が民間で行われていたということを明らかにした。

## ◆教育内容

学部の授業としては次の三種類の講義演習を担当している。

- (1) コア科目である外国語の初級中国語を週三コマ担当し、発音指導から基礎文法の解説および読み、書き、話しの総合的学習を指導している。
  - (2) 中国の古典文献（所謂「漢文」）を古典中国語として読みなれていく訓練を行うとともに、古典を読むための基礎知識を習得できるように指導している。
  - (3) 漢字および漢字字書に関する基礎知識を「漢字字書」の祖といわれる『説文解字』という漢代の字書を清代の注釈を通じて読解することによって、学生自らが基礎力をつけるよう指導している。
- 大学院での講義演習としては、敦煌文献を題材に、文献学的な問題の考察、その講読を通して民間文学の問題の考察などを行っている。

## ◆特許

---

- ・情報やデータの可視化技術。
- ・科学技術系シミュレーションのための格子生成技術と可視化技術。
- ・生命情報学や医療情報学のための可視化技術。
- ・映像や音楽に関する諸技術。例として、検索、合成、人の好みに合わせた提供、など。

## ◆将来の研究計画・研究の展望

---

これまで、教訓的類書から始まって、敦煌文献の通俗類書の問題についての調査検討を行ってきたが、これを宋代の文献と関連させて、通俗類書の流れをより明確にしたいと考えている。

通俗類書の流れは、のちの日用類書や善書と呼ばれるものになってゆくと予想している。このことを明確な資料をもとに検証したい。

## ◆受験生等へのメッセージ

---

中国は文字の国である。甲骨文から現在中国で用いられている簡体字にいたるまで、脈々と文字文化が途絶えることなく続いている。漢字文化は中国にとどまらず、周辺各国にも影響を与え、日本もその例にもれない。漢字について考え、漢字で書かれた文献を読むことは、同じ漢字文化圏に属するものとして、みずからを発見するよい機会になると思う。中国文化を理解することで、いろいろな発見をしてほしいと思う。